

第2回 犀川大橋景観検討委員会

～金沢のシンボル犀川大橋の色彩を考える～



平成20年2月21日

-
- 1, 第1回景観検討委員会の議事概要、色彩検討の手順について
 - 2, アンケート結果の報告
 - 3, 本橋色彩に求められる基本事項の確認
 - 4, 色相の絞り込み
 - 5, 明度の絞り込み
 - 6, 彩度の絞り込み
 - 7, アクセントの付け方について
 - 8, 本橋の色彩案について

1、第1回景観検討委員会の議事概要、色彩検討の手順について

1

1-1 第1回景観検討委員会の議事概要

前回は、現地をご覧頂いた後、主に現地の印象と橋の色彩に関する方向性に関して、たくさんのご意見をいただきました。詳細は別紙を参照していただくこととして、ここではどのような意見が出たかについて、概要を整理しました。

●デザインコンセプト、色彩選定の方向性に関する主要意見の整理

- 1) 周辺建築（茶系）との関係を明らかにする必要がある。
- 2) 周囲に埋没せず、ある程度存在感のある色彩が良い。
- 3) アクセントカラーを取り入れる必要がある。
- 4) 周辺とのコントラストがあるよう、明るめの色彩を選定するのが良い。
- 5) 照明（ガス灯をイメージしたオレンジ系の光源）と調和する色彩が良い。暮れなずむような雰囲気がよい。
- 6) 浅野川大橋を代表格とする浅野川は着物が映えるような女性的な雰囲気がある。暖色系である。（それに対し）犀川（犀川大橋）は男性的な寒色系がよい。
- 7) 参考事例にあるような赤や黄（高彩度色彩）は好ましくない。

●その他

- 1) 日本の伝統色から選定するのが良い。
- 2) 文化財の価値をPRする必要がある。
- 3) 金箔を用いてみたい。

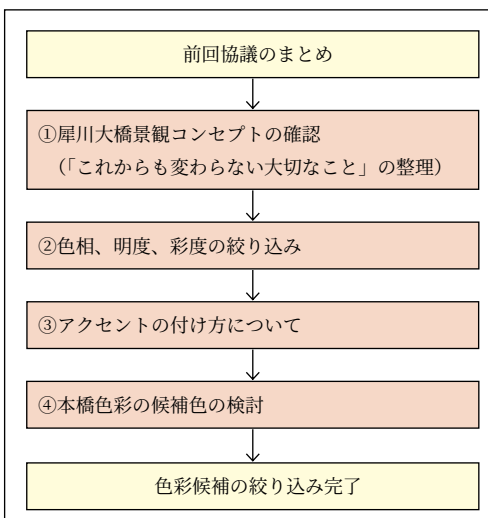
明 度：明るい色彩がよいとの意見が多いようです
彩 度：色味で表現すべきではないとの意見から高めは回避するのがよいようです。
色 相：水と緑に代表される寒色系、電灯の暖色系など、様々です。
その他：金箔など、アクセントが必要との意見がありました。
→まずは「色相（色味の方向性）」について集約が必要のようです。

1-2 色彩検討の手順

前デザインコンセプトに大きく影響する「色味」については、委員の皆様のご意見・ご議論を、まだまだ頂戴する必要があると思います。一方「明るさ」「鮮やかさ」については前回委員会で一定の方向性に集約可能な議論を頂戴したと理解しています。

また、日本の伝統色から、今回は候補色彩を提示したいと考えておりますが、通常土木・建築分野で用いられている「日本の伝統色色見本帳」には約300色も納められております。

限られた時間内で、色彩を絞り込むに当たり、以下の手順で検討を進めたいと考えております。



検討フロー（案）
※赤が議論の中心

1-3 色彩イメージの提示手法について

橋の色彩を決めるに当たり、具体の色彩はもちろん重要なことですが、それと同様に周辺との関係も極めて重要な要素と考えます。

色彩そのものは、色見本等適切な資料はありますが、周辺との関係を確認する上では、当然のことながら現地で試験塗装をするわけにはいきませんので、簡易的な視覚資料の作成が必要です。しかし、現実の色との整合性を突き詰めるのには限界があることから、以下の2つの資料を提示させて頂こうと考えました。

具体の色彩：色見本

景観イメージ：簡易フォトモンタージュ（内からの見え方、外からの見え方）

1-4 その他（留意事項）

①色名の提示方法について

色彩の提示は色名前で提示するほか、比較に議論が容易にできるよう「マンセル値」も添えさせていただきました。

②色の実際の見え方について

色見本を提示させて頂きますが、実際塗られる面積は大きくなることから、一般的には、現在御覧頂いている色見本より「明るく」感じます。これは「面積効果」と言われる現象によるものです。最終候補色彩の選定時には、特にご注意下さい。

2、アンケート結果の報告

2

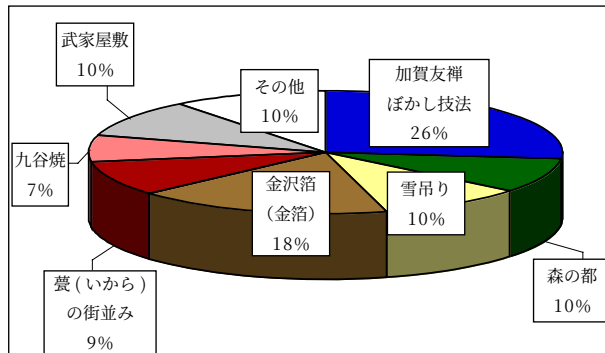
アンケート結果

前回の景観委員会以降、国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所のホームページにて、犀川大橋の新しい色彩に関して、多数の意見をお寄せ頂いております。これまでに寄せ頂いた144名の方のアンケート結果をとりまとめた概要は以下のとおりです。

Q1.「金沢らしさ」を表現するためには犀川大橋を”どのような”イメージにすればよいと思いますか？1つだけ選んで下さい。

第1位：加賀友禅_ぼかし技法 (26%)【前回1位 15.5%】
第2位：金沢箔_金箔 (18%)【前回4位、12.5%】
第3位：森の都 (10%)【前回2位、15.2%】
雪吊り (10%)【前回3位、14.6%】
武家屋敷 (10%)【前回7位、5.4%】

→犀川大橋の現在の色彩やぼかし技法を活用したグラデーションが市民に浸透している様子が伺えます。
加賀伝統の群青壁の色、黒と金、などの具体的なイメージの他検討手法や抽象的なイメージの意見も寄せられました。



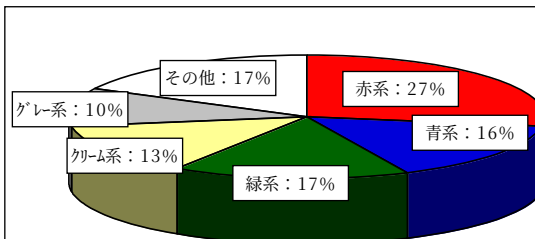
【その他】

加賀伝統の群青壁の色、金沢の長い冬の空
建設当時の伝統、21世紀美術館、雑多な片町のイメージ
用水(犀川)と土塀、黒と金、木橋のイメージ
幕末の錦絵のように、金沢の風土性を活かし風光に映える
江戸から受け継がれた犀川大橋
イメージで色を決める手法は賛成できない
すくなくとも単色にすべき

Q2.「金沢らしさ」を実現するために、犀川大橋にふさわしい色彩はどれだと思いますか？1つだけ選んで下さい。

第1位：赤系 (27%)【前回3位 18%】
第2位：緑系 (17%)【前回2位、26%】
第3位：青系 (16%)【前回1位、27%】
第4位：クリーム系 (13%)【前回4位、11%】

→前回より赤系を好む意見が多く寄せられました。
比較検討案の中にも盛り込んで行きます。



【その他】

金色 (5名)、木の色、木目調、金箔の【金色】
レンガ色 (旧四高レンガ校舎のイメージ)
片町は見た目が暗いので金箔のイメージでゴールド
九谷焼に使われているような黄色系や紫系
白銀と銀鼠のトーンによる構成、深い茶色、黄色
藍色で金箔のイメージのゴールド、ふじ色、小豆色に近い紫
真白か漆黒、1色でなく華やかな和服のイメージ
朱+金、白+金、金銀で華やかに、10YR系 (オレンジ～黄)
焦げ茶系、茶屋街の色・木の色、茶系、格式の高い色
ダークグレーの光沢有るか、きれいに酸化した銅噴き屋根の色

《参考》「金沢らしさ」の表現のための参考イメージ (前回アンケート結果)

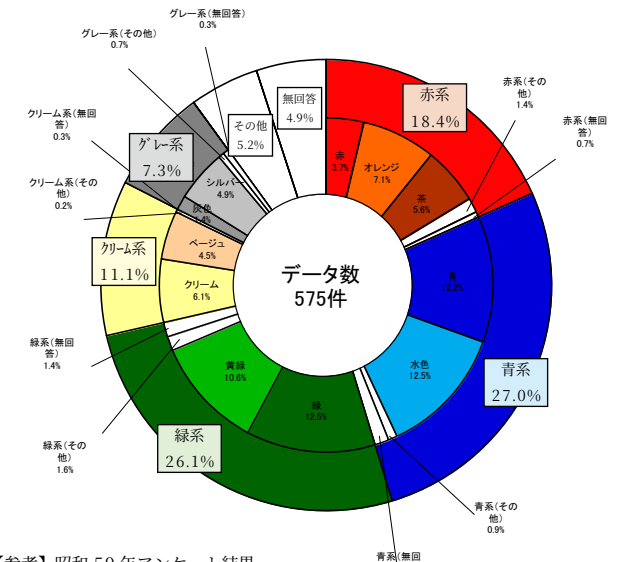
第1位：加賀友禅_ぼかし技法 (15.5%)
第2位：森の都 (15.2%)
第3位：雪吊り (14.6%)
第4位：金沢箔_金箔・銀箔 (12.5%)

《参考》前回委員会で提示したアンケート結果

前回委員会でご提示した「第14回金沢・犀川犀星まつり (平成19年9月22～24日)」開催期間中に、開催したアンケート結果は以下のとおりです。

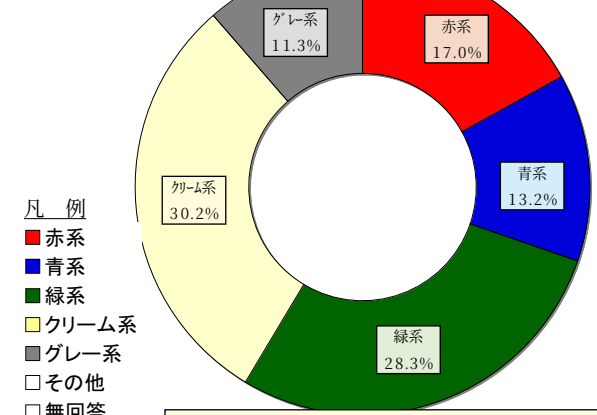
平成19年アンケート結果

回答者：575名



【参考】昭和59年アンケート結果

回答者：53名



凡 例
■ 赤系
■ 青系
■ 緑系
■ クリーム系
■ グレー系
□ その他
□ 無回答

橋に求められる色彩の傾向としては、現況色彩が好まれています。

Q 3. 犀川大橋の色彩についてのご意見や、資料をご覧になった感想等を自由に記入下さい。
(色や金沢らしさの表現についてピックアップしました)

【コンセプト、考え方に関する意見】

- ・橋を渡るのが楽しくなるデザインにしてほしい。
- ・歴史があり、重要な橋として再認識しました。
- ・リベット打ちの無骨な犀川大橋です。
- ・雨が降ることの多い金沢、明るくかつ古都のイメージで赤系の色に友禅の柄。
- ・21世紀美術館に負けないオシャレな感じ。
- ・歴史があり、重要な橋として再認識しました。
- ・ランドマーク的な意味や象徴を生む橋は、特別な色でもいい。
- ・金沢は落ち着いたイメージがあり、色彩にも敏感な反応がある都市なので、周辺の緑と一体化させるのが良い。
- ・昔の面影も残して欲しい。じいちゃんが見ていたあの頃の橋も見てみたい。
- ・最新技術を使って、はじめの色を保てるようにしてほしい。
- ・春の桜の花びらが犀川に浮いて大橋と一体となるイメージ。
- ・金沢の賑わいの象徴に華やかさが欲しい。
- ・犀川に架かる他の橋との違いを際立たせて欲しい。
- ・強い主張を持った色を金沢に持ち込むべき。
- ・犀川大橋は歴史的建造物なので金沢のシンボルでもあり、石川県のシンボルでもある。
- ・工芸品などの「物」をテーマとするより、街並みの印象をさらに強める方にしたほうがよい景観となる。
- ・暖昧なトーンとせず、伝統を感じさせる単色がよい。
- ・四季を通して親しめるものにしてほしい。
- ・金沢らしいきれいな橋にしてほしい。
- ・鉄骨部分の力強さとシャープさの重なり合う景観が重要。
- ・歴史ある街にふさわしい、穏やかな色彩。
- ・落ち着いた重厚な感じながらも、現在的に明るさも持ち合わせたい。
- ・上流に望む四季の山並みの美しさを残したい。

【金沢らしさに関する意見】

- ・金箔はぜひ取り入れてほしい。
- ・金沢といえば、金箔。
- ・加賀友禅や九谷焼、金箔も素敵ですが、犀川と色の釣り合いが取れない。
- ・柱にモチーフとして金箔や漆塗りや焼き物のものを貼りつけたりすると、印象も強くて石川県発信のインパクトがあっていい。
- ・1年の半分を覆う灰色の世界は金沢だけが持つ美しさ。
- ・金沢なので「金」。
- ・兼六園の緑と雪吊りの黄緑と雪のイメージをミックス。
- ・生活圏と全国的にも有名な歓楽街片町・香林坊を結ぶ橋として華やかなイメージとなる橋にしてほしい。
- ・冬の金沢に映える色合いを選定してほしい。
- ・金沢らしさであれば、犀川のほとりや、川辺、背景の山などをきれいに見せることが金沢らしさに繋がると思う。
- ・金沢特産の金粉を内側や部分的にあしらう。控えめで優雅に。

【色に関する意見】

- ・上のほうを薄い色にしたグラデーション。もっとなめらかに。
- ・金沢の歴史にふさわしい落ち着いた色彩、清潔感のある配色。
- ・鉄骨という素材を考慮して彩色してほしい。
- ・歩道の御影石、ガス灯をイメージした街灯にマッチしたカラー。
- ・雪にも映えるレンガ色（ワインカラー）がふさわしいと思います。
- ・古都金沢のイメージで今より明るい犀川大橋。印象的な朱色がいい。
- ・ひととき目立って、映えるのは「赤or朱」。
- ・赤系といっても、しつこくならない程度で、いい色。
- ・インパクトのある色彩にしてみたい。
- ・金沢の風光・河川景観・冬景色との調和を目指す。
- ・今の色は少し寒々しいので今度はやさしい暖色系がいい。
- ・金沢は兼六園が思い浮かぶので、緑色かと思いました。
- ・金沢には黄色が映えるとして、曇りがちな灰色の空。黒く艶のある瓦。
- ・赤は華やかさ、青は冷たさを感じます。
- ・多少ビビッドな色になって人々が良く意識し、一種のランドマークになるほど存在感を増させてもいい。
- ・都市の中でも適度に目立ち、背景となる山々とも対比しうる強度を持った色彩を考えると、やはり「赤」になる。
- ・中途半端な中間色はあまり良くない。
- ・加賀伝統の畦青壁の色。
- ・赤い橋に降る雪の白さは美しい。
- ・建設当時のぬずみ色（文化財建造物としてふさわしく、年代を感じるよう）。
- ・藤色。
- ・犀川大橋の上下流は桜がきれい。それに溶け込む色。
- ・落ち着いた色、明るめの茶系、いつの時期にも通用する色。
- ・川にかかる橋なので、自然をイメージ出来る色、薄い緑系。
- ・金沢という土地柄や気候条件を考慮して暖かい感じの色。
- ・四季を通じてある程度存在を認識でき、かつ優しい色（アースカラー的なもの）。
- ・輪島塗の黒に金箔の金を使って重厚でシャープに。
- ・白（川に来る鷺の白、雪吊りの白、白山の白）。
- ・緑。自然の森の色。
- ・木の色（渋滞していても心休まる、幕末の錦絵）。
- ・アーチ部分は赤、柱等は黒っぽい色。
- ・観光地金沢の名所に必要がある。インパクトのある金しかない。
- ・河原の色も考慮し、うすい緑系。
- ・原色を避け、中間色がよい。
- ・金沢箔組合の総力をあけて箔（金）を張る。
- ・歴代の寒色よりも淡い暖色系（クリーム色以外）の周辺景観に埋もれない色。
- ・金沢の雪吊りをイメージした真っ白に、金箔を振りかけたゴールドをあしらう。
- ・金沢のイメージがわく色彩。犀川の桜を見るときに気持ちがワクワクするような色彩。
- ・茶系の落ち着いた色彩こそが金沢に相応しい。
- ・四季を表現してのグラデーション。
- ・とき色（ピンク系）のグラデーション。
- ・自然の美しさを残し、もう少し明るい新緑系。

【色彩の変更に關して否定的な意見】

- ・景観になじませることが重要なかかれていたが、あれだけごちゃごちゃした街の中で、とけこませることは意味があるのか？と感じた。
- ・14年間市民に親しまれた現在の青灰色グラデーションを塗装色によって変えるのは重荷重に耐え忍んでいる「橋」に失礼。
- ・現在の色彩に市民の多数が不満を持っているのなら別だが、余り変化のある色に変えるべきではない。
- ・有形文化財として国民の財産となっている。せっかく今の青のグラデーションが市民のシンボルとして認知されているのに、何故文化財の基本となる色を変えなければならないのか理解出来ない。
- ・現在の色彩は金沢らしい優柔不断の固まり。ここは21世紀美術館に負けないインパクトを作りましょう。
- ・現在のイメージになれたので、そのままのイメージが続くのがよい。
- ・いまのままでよい。
- ・現在のグラデーションの感じもよく、そのままのイメージを続けて欲しい。

【現在の色彩に対して否定的な意見】

- ・現在の色彩はテーマパーク的な色彩であまり好ましくない。

【その他の意見】

- ・税金の無駄遣いをするな。
- ・犀川はアユ、サケの遡上がみられる他、ウグイやコイ等の魚類が生息する自然豊かな河川。特に大橋の上下流は禁漁区に指定されている。
- ・橋の色も大事なことだと思うが、交通渋滞や夜の客待ちタクシーの列についても十分な対策をお願いします。
- ・アーチ部分は現在の青系で、手すり等に茶系で暖かいイメージ。
- ・インパクトのあるものにして話題を取ったらいかがか？。
- ・本物の加賀友禅をアクリル板でサンドイッチし、鉄骨部に埋め込んでみては。
- ・橋単体ではなく、都市的なスケールを持った視点で問題に対処していただきたい。

【まとめ】

橋のコンセプトから、具体的な色彩に関する意見まで様々な意見を頂きました。

- ・犀川大橋はシンボル性があつたほうがよさそうです。
- ・周囲との関係については馴染む意見と対比させる意見とがありました。
- ・犀川大橋の歴史性について、改めて価値を認識された方が多かったようです。

3, 本橋色彩に求められる基本事項の確認

4

3-1 犀川大橋の景観で大切なこと

これまでの色の変遷と古い写真など改めて確認しながら、まずは「犀川大橋の景観(色彩)」を考える上で、「これまでも、そして今後も変わらないこと」、すなわち、犀川大橋の景観コンセプトの大切なことは以下の3点と考えます。

【犀川大橋の景観で大切なこと】

1. 周辺自然環境との調和

周辺の建築物は、様式・色彩・規模等、時代の要請や技術の進歩、経済的な豊かさの変化などからその姿を変えましたが、変わらなかった重要な景観構成要素の「犀川」「周辺の緑」「空」と常に調和する色彩が選ばれてきました。

2. シンボル性

本橋形式そのものが既に示すように、金沢市街地中心部への玄関口として常に「シンボル」であり続けてきました。

3. 金沢らしさ

様々な文化工芸が今も色濃く受け継がれている金沢は、常に美しい自己表現を追求してきました。犀川大橋の「お色直し」も常に意識されてきました。

【事務局からの提案】

上記3項目は、犀川大橋景観コンセプトとして今後も受け継いでいく

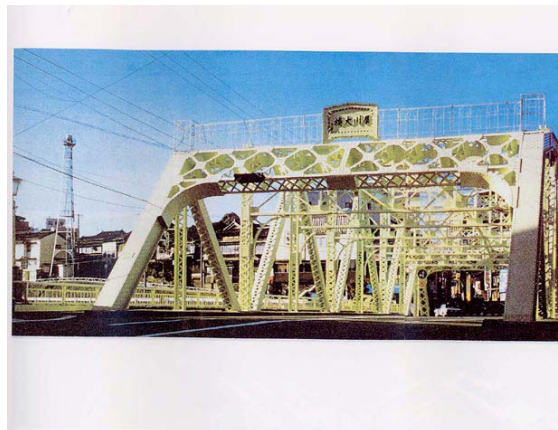
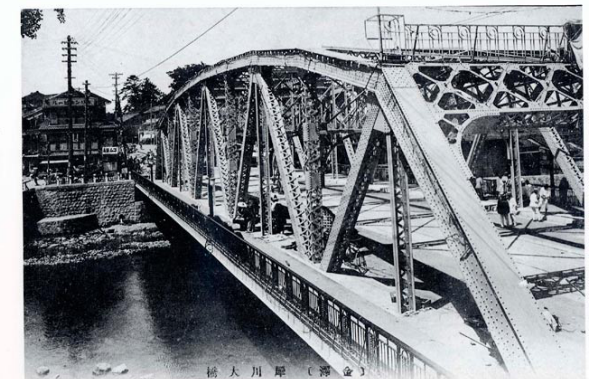


市電が通る大橋
(その一)

3番は野町と大学病院前を結ぶものであった。
昭和四十年ころ。

復旧工事

完成まじかの人前(その二)



大橋の色

昭和五十九年には市民アンケートに基づき重緑色に塗られた「民衆を問う」の姿勢で公共の色彩・環境色彩十進の心づきに選ばれた。



市電撤去後の大橋

早朝、道路を走る月夜の橋頭が燈門橋に掛けられた。

3-2 補修歴と色彩の変遷

1924 (大正 13) 年: 竣工 (当時は「ネズミ色」との文献記載あり)

1957 (昭和 32) 年: 横桁 11 本補修、床版補修

1958 (昭和 33) 年: 石川県から建設省に管理を移管

1966 (昭和 41) 年: 塗装 (薄いカーキ色)

1967 (昭和 42) 年: 軌道撤去、オーバーレイ、モルタルによる床版補修

1969 (昭和 44) 年: 載荷試験

1975 (昭和 50) 年: 塗装 (白系クリーム色) ※右写真【①】

1976 (昭和 51) 年: 河川改修に伴う橋台補修

1978 (昭和 53) 年: 縦桁・排水桝取替、床版部分打換、鋼板接着、下横構ガセット部分取替

1984 (昭和 59) 年: 塗装 (黄緑色) ※右写真【②】

載荷試験、鉛直材テンションバー設置、伸縮継手取替

1988 (平成元) 年: 金沢市景観条例にて建築物色彩に指導することとなる。

犀川およびその周辺地区は「伝統環境保存区域」周辺の自然・街並みに配慮すること
隣接する片町・野町は「近代的都市景観創出区域」茶やグレーの建築へ基本的に指導

1993 (平成 05) 年: 塗装 (青灰色系グラデーション) ※右写真【③】

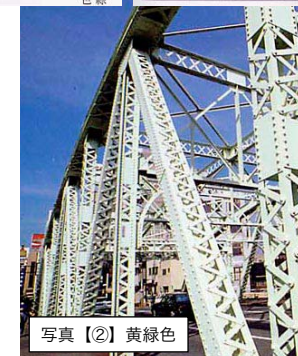
歩道部拡幅、垂直材・格点部補強、伸縮継手取替

1994 (平成 06) 年: 舗装打換、パラペット拡幅、照明灯取替

2000 (平成 12) 年: 国の登録有形文化財に指定



写真【①】白系クリーム色



写真【②】黄緑色



写真【③】青灰色系グラデーション

4、色相の絞り込み

5

色相に関する検討

主な色相「5案」を提示します。各案と犀川大橋景観コンセプトとの関係は下表に示すとおりです。

周辺との関係を示す言葉

- 【同系】ほぼ同じ色相。最も調和する方向性
- 【類似】隣の色相で、ほぼ調和する。
- 【無相関】類似でも対比でもない関係。
- 【対比】色相環でほぼ反対側に来る色相。

【事務局からの提案】寒色系から基本色彩を選定していく
犀川大橋デザインコンセプトの1つである「自然環境との調和」を考えると第3案～第5案の寒色系に絞られるようです。

	第1案：赤系	第2案：黄系	第3案：緑系	第4案：青系	第5案：紫系
コンセプト	金沢伝統文化の「華やか」なイメージを表現し、犀川護岸にある桜をシンボリックに表現した色彩	周辺建築と調和する「茶系」落ち着いた雰囲気の中でも、明るめの色彩によりシンボル性を表現	「森の都：金沢」を色濃く表現する色彩。	男川：犀川のシンボルとなる色彩。	男川：犀川のシンボルを意識しつつ、金沢文化の雅で華やかな雰囲気を表現する色彩
参考となる日本の伝統色名 (高明度・中低彩度より)	桜色 さくらいろ DIC N-704 系統色名 こくうすい赤 灰桜 はいざくら DIC N-718 系統色名 明るい灰赤 桜鼠 さくらねず DIC N-948 * 系統色名 明るい黄みの灰色	象牙色 そうげいろ DIC N-789 系統色名 明るい灰黄 薄香色 うすこういろ DIC N-780 系統色名 こくうすい黄 灰汁色 あくいろ DIC N-951 * 系統色名 黄みの灰色	白緑 びやくろく DIC N-839 系統色名 こくうすい緑 錆青磁 さびせいじ DIC N-856 系統色名 明るい灰緑 利休鼠 りきゅうねず DIC N-953 * 系統色名 緑みの灰色	藍白 あいじろ DIC N-869 系統色名 青みの白 深川鼠 ふかがわねず DIC N-949 * 系統色名 明るい青みの灰色 浅葱鼠 あさぎねず DIC N-879 系統色名 灰青	薄藤 うすふじ DIC N-903 * 系統色名 明るい灰紫 鳩羽鼠 はとばねず DIC N-956 * 系統色名 紫みの灰色
シンボル性	川、空、緑などの自然環境との対比によりシンボル性が表現される。	川、空、緑などの自然環境との対比によりシンボル性が表現される。	明るさと建物との対比によりシンボル性が表現される	明るさと建物との対比によりシンボル性が表現される。ただし、夜間景観として対比が強すぎるとの意見あり	明るさと建物との対比によりシンボル性が表現される
金沢らしさ	「華やかな」イメージは金沢の雰囲気に近いが、直接的な表現とはなり得ない。アクセント等で表現する必要がある。	雪吊や弁柄格子等に直結するが、アンケートの回答数は少ない。アクセント等で表現する必要性あり。	森の都を象徴する色彩で、金沢らしさと捉えることが出来る。アクセントにも工夫が必要。	直接的に金沢を表現とはなり得ない。アクセント等で表現する必要がある。	「華やか」「雅」のイメージは直接的ではないが金沢の雰囲気と捉えることも可能。アクセントにも工夫が必要。
犀川（男性的）な寒色系	【対比】	【無相関】	【類似】	【同系】	【類似】
川、空、緑（青緑）との関係	【無相関】	【無相関】	【同系】	【同系】	【類似】
周辺建築（茶）との関係	【類似】	【同系】	【類似】	【対比】	【対比】
ガス灯（赤・黄）との関係	【類似】	【類似】	【無相関】	【対比】	【無相関】

5、明度の絞り込み

6

明度に関する検討

明度について「明るめの色彩がよい」との意見が出されています。これは、周辺との関係に対し、以下の点を重要視した意見と受け止めています。

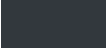
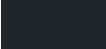
- 1) シンボルとなるよう、若干のコントラスト（差）を付ける。
- 2) 暗くなると、橋上では重く感じる。（好ましくない方向である）

右にイメージを把握して頂くために簡易フォトモンタージュを示しました。

明度検討の候補色

まずは、日本の伝統色の中から、極めて色味の少ない（白黒に近い）色彩6候補を抽出しました。以下の6通りです。

表 明度検討の6候補色

		明度		
	灰白 はいじろ DIC N-946 系統色名 白	6.4 Y	8.5	/ 0.4
	銀鼠 ぎんねず DIC N-947 系統色名 明るい灰色	3 GY	7.5	/ 0.1
	素鼠 すねず DIC N-954 系統色名 灰色	9 B	5	/ 0.3
	石板色 せきばんいろ DIC N-957 * 系統色名 暗い灰色	8.5 B	3.4	/ 0.5
	消炭色 けしずみいろ DIC N-958 * 系統色名 暗い青みの灰色	0.4 PB	2.4	/ 0.6
	墨色 すみいろ DIC N-960 * 系統色名 青みの黒	1.2 PB	1.6	/ 0.7

【事務局からの提案】明度5以上

【内から橋を見る】明度5以下は、橋上の視点では重たく感じます。

【外から橋を見る】周辺との関係を見ても「明るい色彩」のほうが、シンボルとして浮き立って見えるように感じます。

→お示しした案の内、1～3案に絞り込みたいと考えます。



第1案：灰白（明度：8.5）



第4案：石板色（明度：3.4）



第2案：銀鼠（明度：7.5）



第5案：消炭色（明度：2.4）



第3案：素鼠（明度：5.0）



第6案：墨色（明度：1.6）

6、彩度の絞り込み

7

彩度に関する検討

絞り込んだ明度の中でも、比較的彩度の低い色彩を候補色として抽出し、右の表に分類しました。右に行くほど明るく、下に行くほど色味がハッキリしてきます。

彩度の絞り込みに対しては、コンセプトによって、選定ゾーンが異なってくると思いますが、

7) 参考事例にあるような赤や黄（高彩度色彩）は好ましくない。

というご意見から、シンボルや金沢らしさを表現する方法として「彩度」を高くすることは、景観を煩雑にするため、好ましくないと考えました。

彩度の絞り込み

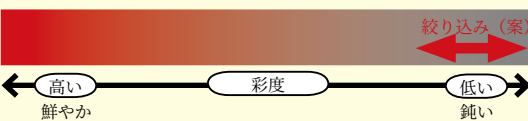
次頁以降のフォトモンタージュ等より、本橋の基本色は上記範囲で選定するのがよいと考えます。事務局としては「中高明度、極低彩度」色彩の中から選定するのがよいと考えますが、フォトモンタージュを検討手法に用いていることから、比較的議論をしやすいとするため「高明度、低彩度」（右図の赤四角内）にて、コンセプトの議論を進め、改めて「彩度の方向性」についてご意見頂き、候補色の絞り込みに入りたいと思います。

【事務局からの提案】色彩が強調されるゾーンは回避

高明度、中・低彩度としては右の表になります

実際の色見本を見てみると、右下点線部（高明度・中彩度）は色そのものが目立つ傾向にあるようです。

したがって、実際に橋に塗装したとき、色ばかりが目立つ可能性が非常に高くなります。（別紙、および12頁の色見本等を参照）



		明 度			
		(中高明度) 4.5 ～ 7.5		(高明度) 7.5 ～	
彩 度	(極低彩度)	銀鼠 ぎんねず DIC N-947 系統色名 明るい灰色	灰色 はいいろ DIC N-950 * 系統色名 明るい黄みの灰色	灰白 はいじろ DIC N-946 系統色名 白	
		深川鼠 ふかがわねず DIC N-949 * 系統色名 明るい青みの灰色	灰汁色 あくいろ DIC N-951 * 系統色名 黄みの灰色	藍白 あいじろ DIC N-869 系統色名 青みの白	
		素鼠 すねず DIC N-954 系統色名 灰色	利休鼠 りきゅうねず DIC N-953 * 系統色名 緑みの灰色	薄香色 うすかういろ DIC N-780 系統色名 ごくうすい黄	
	2.0	鳩羽鼠 はとばねず DIC N-956 * 系統色名 紫みの灰色	根岸色 ねぎしいろ DIC N-987 系統色名 緑みの灰色	乳白 にゅうはく DIC N-945 系統色名 黄みの白	
		桜鼠 さくらねず DIC N-948 * 系統色名 明るい黄みの灰色	薄色 うすいろ DIC N-999 系統色名 明るい灰紫	水縹 みずはなだ DIC N-993 系統色名 明るい緑みの灰色	
	(低彩度)	浅葱鼠 あさぎねず DIC N-879 系統色名 灰青	利休白茶 りきゅうしらちゃ DIC N-812 系統色名 灰黄	桜色 さくらいろ DIC N-704 系統色名 ごくうすい赤	
		灰桜 はいざくら DIC N-718 系統色名 明るい灰赤	老竹色 おいたけいろ DIC N-821 * 系統色名 灰黄緑	素色 しろいろ DIC N-782 系統色名 明るい灰黄	
		紫色 ふしいろ DIC N-774 系統色名 灰黄	山鳩色 やまばといろ DIC N-822 * 系統色名 灰黄緑	鳥の子色 とりのこいろ DIC N-787 系統色名 ごくうすい黄	
	2.1	ページュ ペーじゅ DIC N-784 系統色名 明るい灰黄	裏葉色 うらはいろ DIC N-855 系統色名 明るい灰緑	象牙色 そうげいろ DIC N-789 系統色名 明るい灰黄	
		白茶 しらちゃ DIC N-785 * 系統色名 明るい灰黄	錆青磁 さびせいじ DIC N-856 系統色名 明るい灰緑	白緑 びやくろく DIC N-839 系統色名 ごくうすい緑	
	3.0	砂色 すないろ DIC N-800 系統色名 灰黄	灰緑 はいみどり DIC N-857 * 系統色名 灰緑	薄藤 うすふじ DIC N-903 * 系統色名 明るい灰紫	

7. アクセントの付け方について

8

【事務局からの提案】「第1案」によるアクセント付与を推奨します。

第1案：金箔が技術的に適用可能であれば、橋銘板での変化はアクセントになります。

第2案：部材毎の塗り分けは煩雑な印象が創出されやすいようです。

第3案：橋全体の塗り分けも、現況のような明快なコンセプトが無い限り、あまりよい効果は得られないようです。

第1案：橋銘板にアクセント色彩を配置	第2案：橋の特徴を示す部材毎の塗り分け	第3案：橋全体で塗り分け (アンケートで人気の高かった加賀友禅のぼかし技法の活用)
橋の玄関のシンボルとも言える「橋銘板」にアクセント色彩を用いる手法です。金沢伝統工芸の1つである金箔の活用についても可能性を残しています。 【金沢らしさ】橋全体の色彩とアクセントで表現 【シンボル性】橋全体の色彩で表現	本橋はその構造形式に特徴を有しています。本案は、橋の構造を目立たせる塗り分けがアクセントとなります。 【金沢らしさ】橋全体の色彩で表現 【シンボル性】アクセントで表現	橋全体で、色彩を塗り分けることでアクセントとする手法です。 リベットを塗り分ける、主構造（鉛直材、斜材）の中間にある細かな斜材等を塗り分ける手法が該当します。 現在の橋と同じ加賀友禅のぼかし技法も、本案に該当します。 【金沢らしさ】アクセントで表現 【シンボル性】橋全体の色彩とアクセントで表現
  橋銘板に金箔：効果的にシンボル性があり、金沢らしさが伝わります。 橋は単色の方が、より互いに引き立つかもしれません。	  鉛直材を濃く：下路式曲弦ワーレントラスの形を誇張させています。 鉛直材を濃く：歩行者目線では煩雑な印象を与えているかも知れません。	   現況案：川と空の色彩にぼかし技法が、周辺に馴染んでいます。 緑のグラデーション：現況のような周囲との関係性がないようです。 緑の横のグラデーション：シンボル性が高まっています。

【議題】 本橋の色彩案について

9

具体的な色彩の方向性

これまでの犀川大橋景観のあり方にはじまり、色の三属性に関する絞り込みから、本頁に示す4案を事務局案として提案致します。

【第1候補】：青色グラデーション（これからもずっと）

コンセプト：金沢を代表する伝統工芸の1つである加賀友禅の技法を用い「犀川の水の流れ～空」へと繋がる青色グラデーションを配色する案。ようやく市民に定着しつつある色彩・コンセプトは今後も変えない。

要点：文化財登録に伴い、今後もこの色彩とする。アクセントは特に用いない。



【第2候補】：緑系（森の都：金沢の象徴）

コンセプト：加賀百万石の城下町：金沢は兼六園など緑の豊かさが街のシンボル。中心市街地の玄関口に位置する本橋は森の都を象徴する「緑系」でシンボリックに表現する。

要点：アクセントに金箔を使用、次々回も市民と共に再検討



参考候補色：N993 水縹・みずはなだ（マンセル値 9.6G 7.6 / 1.2）

【第3候補】：青系（犀川と橋の2大シンボルが主役となる景観形成）

コンセプト：「男川：犀川」と「犀川大橋」が主役となるよう「青系」で統一する。金沢らしさの表現として橋名盤に金箔を用い、伝統工芸技法を近視点から際立たせ、観光客を喜ばせる。

要点：近視点で金沢らしさの表現。川と橋が主役の景観。今後も基本的に変えない。



参考候補色：N949 深川鼠・ふかがわねず（マンセル値 0.7PB 6.4 / 1.5）

【第4候補】：紫系（文化芸能に秀でた優雅さを演出）

コンセプト：川や空に代表される青系の環境要素との調和にも配慮しながら、「文化工芸の都：金沢」を華やかに彩るイメージとする。「お色直し」の効果も高く今後も十数年に一度の「お色直し」を橋と市民と共に楽しんでいく。

要点：次々回塗り替え時には、新たな色彩とする。アクセントは特に用いない。



参考候補色：N999 薄色・うすいろ（マンセル値 1.1RP6.6/ 2）